

## 第2章 小都市の文化財の概要

### 1. 指定等文化財

小都市には、文化財保護法や福岡県文化財保護条例、小都市文化財保護条例に基づいて指定・登録された文化財が所在しています。このうち、県立の歴史系博物館である九州歴史資料館に展示・保管されている他市町村所有の資料を除くと、その数は32件（令和7（2025）年8月時点）です。

内訳は、国指定・選定文化財2件、県指定文化財7件、市指定文化財20件、国登録文化財3件で、国や市によって選定された文化的景観・伝統的建造物群・文化財の保存技術はありません。記録作成等の措置を講すべき無形文化財や無形の民俗文化財もありません。また、市の文化財保護条例に基づく登録制度がありますが、現在のところ登録物件はありません。

類型		国指定 ・選定	国選択	県指定	市指定	国登録	市登録	計
有形文化財	建造物	0	—	0	4	2	0	6
	絵画	0	—	0	0	0	0	0
	彫刻	0	—	1	2	0	0	3
	工芸品	0	—	0	0	0	0	0
	書跡・典籍	0	—	0	0	0	0	0
	古文書	0	—	0	0	0	0	0
	考古資料	1	—	3	2	0	0	6
	歴史資料	0	—	0	3	0	0	3
無形文化財		0	0	0	1	0	—	1
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	—	0	0	0	—	0
	無形の民俗文化財	0	0	0	1	0	—	1
記念物	遺跡	1	—	2	4	0	—	7
	名勝地	0	—	0	0	1	—	1
	動物・植物・地質鉱物	0	—	1	3	0	—	4
文化的景観		0	—	—	0	—	—	0
伝統的建造物群		0	—	—	0	—	—	0
計		2	0	7	20	3	0	32

\*令和7（2025）年8月時点

小都市に所在する指定等文化財の件数

[国指定文化財]

類型		名称	所在地	指定年月日
有形文化財	考古資料	小郡若山遺跡土坑出土品 一括	三沢 (文化庁所蔵)	平成 10 年 10 月 16 日
記念物	遺跡	小郡官衙遺跡群 小郡官衙遺跡 上岩田遺跡	小郡・上岩田	昭和 46 年 12 月 13 日 ほか

[福岡県指定文化財]

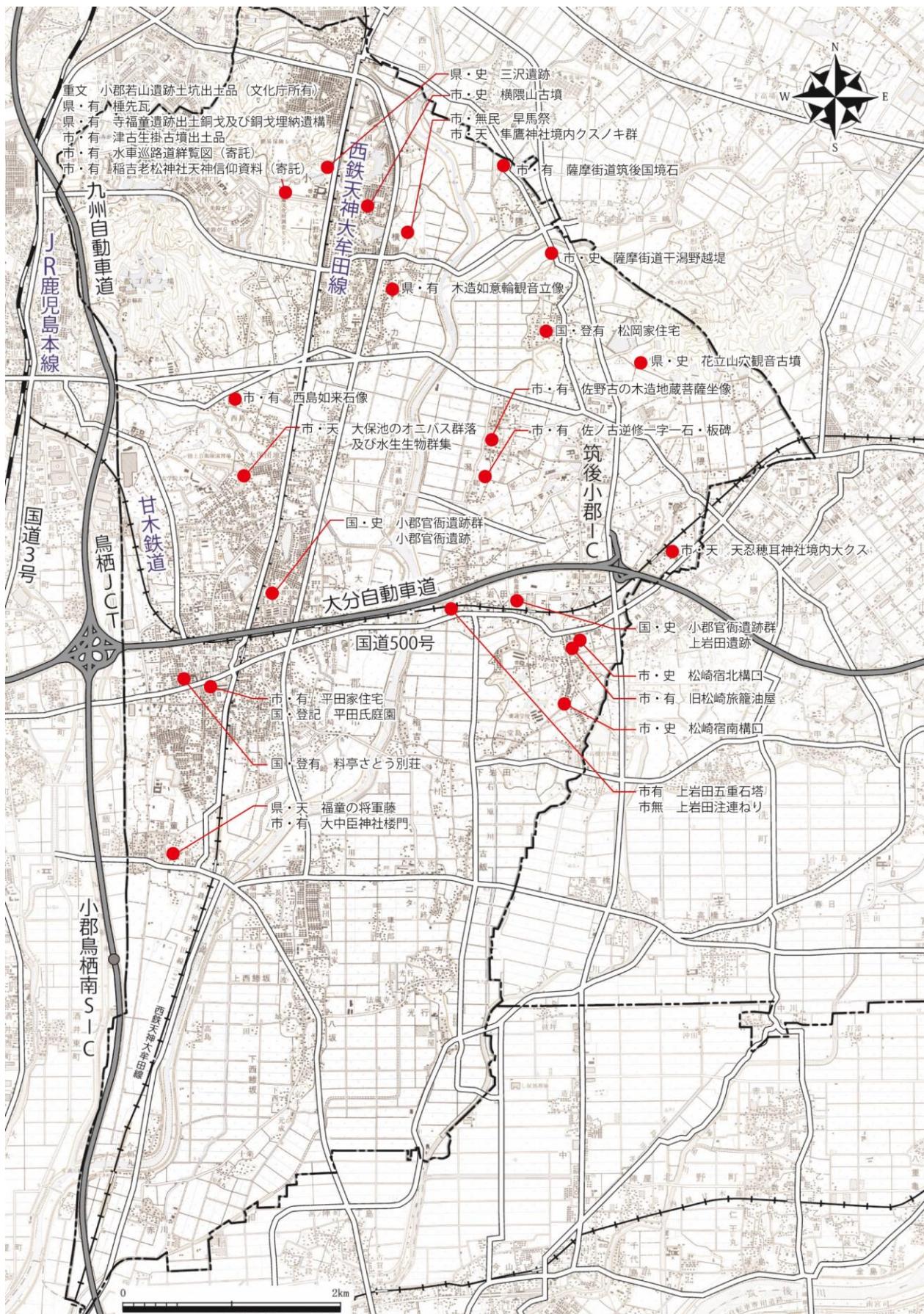
類型		名称	所在地	指定年月日
有形文化財	彫刻	木造如意輪觀音立像 一躯	横隈	昭和 52 年 4 月 9 日
有形文化財	考古資料	樺先瓦 五点	三沢	昭和 35 年 4 月 12 日 ほか
有形文化財	考古資料	樺先瓦 一点	三沢	昭和 35 年 8 月 16 日
有形文化財	考古資料	寺福童遺跡出土銅戈及び銅戈埋納遺構切取 資料 九口及び一点	三沢	平成 28 年 3 月 25 日
記念物	遺跡	三沢遺跡	三沢・あすみ	昭和 53 年 3 月 25 日 ほか
記念物	遺跡	花立山穴觀音古墳	干潟	平成 19 年 2 月 5 日
記念物	動物・植物・ 地質鉱物	福童の將軍藤	福童	昭和 45 年 5 月 2 日

[小郡市指定文化財]

類型		名称	所在地	指定年月日
有形文化財	彫刻	西島如來石像	三沢	昭和 61 年 3 月 18 日
有形文化財	彫刻	佐野古の木造地蔵菩薩坐像	佐野古	令和 6 年 2 月 21 日
有形文化財	考古資料	上岩田五重石塔	上岩田	昭和 61 年 3 月 18 日
有形文化財	考古資料	津古生掛古墳出土品	三沢	令和 3 年 11 月 25 日
有形文化財	建造物	大中臣社樓門	福童	平成 3 年 9 月 19 日
有形文化財	建造物	旧 松崎旅籠油屋 主屋一棟 座敷一棟	松崎	平成 13 年 12 月 20 日
有形文化財	建造物	薩摩街道筑後國境石 (乙隈境石)	乙隈	平成 26 年 10 月 21 日
有形文化財	建造物	平田家住宅 主屋一棟 座敷四棟 門二棟 瓦塀一棟 付 主屋棟札一面	小郡	平成 28 年 8 月 16 日
有形文化財	歴史資料	水車巡路道 終覽図 付 台帳六冊	三沢	平成 20 年 7 月 16 日
有形文化財	歴史資料	佐ノ古逆修一字一石・板碑	吹上	平成 26 年 10 月 21 日
有形文化財	歴史資料	稻吉老松神社天神信仰資料	稻吉	令和元年 8 月 29 日
無形文化財		上岩田注連ねり (人形じめ)	上岩田	平成 17 年 12 月 20 日
民俗文化財	無形の民俗 文化財	早馬祭	横隈	平成 10 年 8 月 1 日
記念物	遺跡	松崎宿南構口	松崎	昭和 51 年 8 月 1 日
記念物	遺跡	松崎宿北構口	松崎	昭和 51 年 8 月 1 日
記念物	遺跡	薩摩街道干潟野越堤	干潟	平成 29 年 8 月 21 日
記念物	遺跡	横隈山古墳	三国が丘	令和 3 年 11 月 25 日
記念物	動物・植物・ 地質鉱物	天忍穗耳神社境内大クス	今隈	平成 15 年 11 月 25 日
記念物	動物・植物・ 地質鉱物	隼鷹神社境内クスノキ群 (クスノキ 3 本)	横隈	平成 15 年 11 月 25 日
記念物	動物・植物・ 地質鉱物	大保池のオニバス群落及び水生生物群集	大保	令和元年 8 月 29 日

[国登録文化財]

類型		名称	所在地	登録年月日
有形文化財	建造物	松岡家住宅 母屋一棟 倉庫一棟 玄関門 一棟 門柱一基 墀一基	干潟	平成 27 年 8 月 4 日
有形文化財	建造物	料亭さとう別荘 玄関棟一棟 広間棟一棟 門一棟	小郡	令和 3 年 6 月 24 日
記念物	名勝地	平田氏庭園	小郡	平成 30 年 2 月 13 日



指定等文化財の分布

## (1) 有形文化財

有形文化財は国指定1件、県指定4件、市指定11件、国登録2件の18件です。内訳は建造物が6件、美術工芸品のうち彫刻が3件、考古資料が6件、歴史資料が3件で、絵画や工芸品、書跡・しょせき典籍、古文書の指定はありません。

### ① 建造物



旧松崎旅籠油屋



大中臣神社楼門

指定された建造物の多くは、江戸時代後半から昭和時代初頭に建てられた、交通や生業に関連するものです。

旧松崎旅籠油屋 (市指定) は、延宝6 (1678) 年に参勤交代道に定められた薩摩街道の宿場町である松崎にあります。主屋と座敷の2つの棟からなる、大型の旅籠建築です。現存する建物は幕末に建てられたもので、主屋の2階は一般の旅行者の、座敷は賓客の宿泊に使われていました。

平田家住宅 (市指定) は、江戸時代の往還である彦山道沿いの在郷町である小郡にあります。蝶産業で財産を築いた平田氏の邸宅で、主屋と複数の座敷を廊下や橋でつなぐ構造が特徴です。それぞれの建物は、幕末から昭和初期に順次建てられ、その間に石や植栽を配置した庭園が造られています。

このほか、松崎から薩摩街道を北上した筑紫野市との市境 (旧筑後・筑前国境) に、薩摩街道筑後国境石 (乙隈境石) (市指定) があります。現在のものは天保年間 (1830~1843) に造られました。社寺は天保6 (1835) 年に再建の記録がある大中臣神社の楼門 (市指定)、住宅は大正12 (1923) 年に上棟した記録がある松岡家住宅 (国登録)、大正14 (1925) 年竣工の料亭さとう別荘 (国登録) があります。

### ② 美術工芸品

#### [彫刻]

指定された彫刻はいずれも仏像で、古くから地域の人びとに信仰されてきたものです。

平安時代後期に作られた如意輪觀音立像 (県指定) は、横隈にある如意輪寺の本尊で、子安觀音として筑後地方一帯の信仰を集めてきました。如意輪觀音像は腰を下ろした姿であることが多く、立ち姿のものは貴重です。12年に一度、巳年の一定期間だけ開帳されています。

このほか、元享2 (1322) 年に作られた西島如来石像 (市指定)、室町時代の作とされる佐野古の木造地蔵菩薩坐像 (市指定) があります。

## [考古資料]

当市は古くから遺跡の存在が知られており、発掘調査の件数も多いため、さまざまな考古資料が指定されています。

津古生掛古墳出土品（市指定）は、前方後円墳の副葬品である方格規矩鳥文鏡 1面、鉄剣 1振、ガラス小玉 57個、鉄鏃 31本と、周溝で見つかった鶏形土製品 3個体が指定されています。ガラス小玉に含まれる成分や鉄鏃の形の特徴が、ヤマト王権の所在する近畿地方で見つかったものと似通っており、このころからの強いつながりを示しています。



津古生掛古墳出土品（鶏形土製品）

このほか、弥生時代のマツリに用いられた銅鏡と弥生土器が地中に埋納された状態で見つかった小郡若山遺跡土坑出土品（国指定）、寺福童遺跡出土銅戈（県指定）、飛鳥時代に井上の寺院で使われていた樋先瓦（県指定）、元徳 2（1330）年に地域の人びとの安寧を願って作られた上岩田五重石塔（市指定）があります。

## [歴史資料]

歴史資料は、地域の人びとの信仰や商業に関する資料が指定されています。

稻吉老松神社天神信仰資料（市指定）は、菅原道真の生涯と靈験を描いた「縁起絵」と呼ばれる掛軸 2幅、松図と紅梅図の掛軸各 1幅、神社の縁起を記した巻物 1巻、綴本 1冊が指定されています。このうち「縁起絵」



稻吉老松神社天神信仰資料（縁起絵・部分）

に稻吉老松神社が描かれており、天神への信仰が地域の人びとに身近なものであったことを示しています。

このほか、天文 22（1553）年に造られた佐ノ吉逆修一字一石板碑（市指定）、篩絹商が得意先回り用の地図として福岡県や佐賀県の各所を描いた明治 20（1887）年作の水車巡路絵図（市指定）があります。



上岩田注連ねり

## （2）無形文化財

無形文化財は市指定が 1 件あり、国の指定・記録選択、県の指定を受けたものはありません。

上岩田注連ねり（市指定）は、別名の「人形じめ」が示すように、人の形をした注連縄を作つて奉納する行事です。秋の収穫に感謝する行事で、その年の新しい稻藁を使い、上岩田老松神社の拝殿に納める大じめ 1 体と、境内の巨石に納める小じめ 3 体を作ります。

### (3) 民俗文化財

民俗文化財のうち、有形の民俗文化財の指定等はありません。無形の民俗文化財は市指定が1件で、国の指定・記録選択・登録、県の指定を受けたものはありません。

#### ① 無形の民俗文化財

無形の民俗文化財は、五穀豊穣と家内安全を願う初冬の行事が指定されています。

早馬祭（市指定）は、早馬と呼ばれる馬を担いで氏子の家々を回る行事です。馬はその年の新しい稻藁で作られ、筒形の胴体にたてがみを示す綱がついています。その由来は不明ですが、このような形の馬はほかでは見られない小郡市独特のものです。

### (4) 記念物

記念物は国指定1件、県指定3件、市指定7件、国登録1件の12件あります。内訳は遺跡が7件、名勝地が1件、動物・植物・地質鉱物が4件です。



花立山穴観音古墳



小郡官衙遺跡群 小郡官衙遺跡



薩摩街道干潟野越堤

#### ① 遺跡

遺跡は、古墳や官衙のような支配者層に関わるもの、江戸時代の街道に関わるものが多く指定されています。

花立山穴観音古墳（県指定）は、花立山の麓にある古墳時代後期の前方後円墳です。石室の壁に、三角や格子に線を刻み込んだ装飾があります。

小郡官衙遺跡群（国指定）は、飛鳥時代から奈良時代の御原郡の行政機関の跡です。飛鳥時代の上岩田遺跡と、奈良時代の小郡官衙遺跡の2カ所が合わせて指定されています。

薩摩街道干潟野越堤（市指定）は、江戸時代の参勤交代道の路肩に造られた石積の施設です。隣接する川が氾濫したときに、一体になっている堤防と街道が水圧で崩壊しないよう、安定した状態で越水させる機能を持っています。

このほか、弥生時代の集落である三沢遺跡（県指定）、古墳時代中頃の前方後円墳である横隈山古墳（市指定）、江戸時代の宿場町である松崎の出入口に造られた松崎宿南構口・北構口（市指定）があります。

## ② 名勝地

名勝地は、平田家住宅（市指定）の敷地内にある近代の庭園が登録されています。

平田氏庭園（国登録）は、小郡市と鳥栖市で造園にたずさわった松尾仙六の手によるものです。主庭に、水の流れとそれを受ける池、巨岩を加工した滝石組が建築物の間に配置され、平田家住宅の全ての建物から鑑賞できるように造られています。

## ③ 動物・植物・地質鉱物

動物・植物・地質鉱物は、歴史的な伝承を持つものと自然に自生するものが指定されています。

福童の將軍藤（県指定）は、幹回り 2.0m、被覆面積は 500 m<sup>2</sup>を超えます。大保原合戦で深手を負った南朝方の征西將軍宮の懷良親王が、大中臣神社に治癒を祈願し、回復した証しに感謝を込めて奉納した藤と伝えられています。



福童の將軍藤

このほか、仲哀天皇と神功皇后にまつわる伝承を持つ隼鷹神社境内クスノキ群（市指定）、平成 29（2017）年に生育が確認された大保池のオニバス群落と水生生物群集（市指定）があります。市の木のクスノキのモデルとなった天忍穗耳神社境内大クス（市指定）は、平成 30（2018）年に雷の直撃で幹に大きな被害を受けました。樹勢の回復に必要な栄養が幹に回るよう、枝の大幅な剪定をして、現在は経過観察を行っています。



隼鷹神社境内クスノキ群



天忍穗耳神社境内大クス  
(平成 27 年撮影)

## (5) 文化的景観

選定された文化的景観はありません。

## (6) 伝統的建造物群

選定された伝統的建造物群はありません。

## (7) 文化財の保存技術

選定された文化財の保存技術はありません。

## (8) 関連する制度

文化庁が食文化の継承と振興を目指して進めている「100 年フード」において、当市に江戸時代から伝わる鴨料理が「小郡の鴨を取り巻く食文化」で認定されています。

また「史跡に指定する価値を有する埋蔵文化財」として花立山古墳群がリストに登載されています。

## 2. 未指定等文化財

未指定等文化財には、平成3（1991）年度に始まった『小郡市史』の編纂<sup>へんさん</sup>の際と、平成21（2009）年度～30（2018）年度に伝承等文化資源調査として実施した調査、平成24（2012）年度～28（2016）年度に文化遺産再発見事業として実施した調査で把握しています。この中には指定・登録すべき価値を持つものも多く含まれていますが、専門的な調査ができておらず、大半は未指定・未登録の状態です。

現在把握できている未指定等文化財は総数20,596件で、有形文化財17,015件（うち建造物797件、美術工芸品16,218件）、無形文化財2件、民俗文化財987件（うち有形の民俗文化財823件、無形の民俗文化財164件）、記念物576件（うち遺跡426件、名勝地38件、動物・植物・地質鉱物112件）、文化的景観111件、その他の文化財1,905件です。

類型／中学校区		立石中 校区	宝城中 校区	三国中 校区	小郡中 校区	大原中 校区	計
有形文化財	建造物	235	189	115	149	109	797
	絵画	9	11	13	4	3	40
	彫刻	272	352	113	161	142	1,040
	工芸品	5	2	1	0	1	9
	書跡・典籍	0	0	0	0	0	0
	古文書	3,255	3,060	1,619	4,852	1,417	14,203
	考古資料	38	9	68	26	24	165
	歴史資料	390	78	114	141	38	761
無形文化財		0	1	1	0	0	2
民俗文化財	有形の民俗文化財	208	242	116	142	115	823
	無形の民俗文化財	41	51	34	22	16	164
記念物	遺跡	136	61	108	68	53	426
	名勝地	9	11	4	2	12	38
	動物・植物・地質鉱物	32	23	12	27	18	112
文化的景観		34	26	17	21	13	111
伝統的建造物群		0	0	0	0	0	0
その他の文化財	地名	280	456	178	177	181	1,272
	人物史	1	2	0	0	0	3
	昔語り	133	132	89	85	93	532
	地域資源	11	36	15	15	21	98
計		5,089	4,742	2,617	5,892	2,256	20,596

小郡市内の未指定・未登録文化財の件数（市史編纂時調査及び市内文化遺産調査、伝承等文化資源調査より作成）

## (1) 有形文化財

### ① 建造物

建造物は、社寺に建てられたものや民家、鳥居などを把握していますが、建立時期が江戸時代までさかのぼれるのは、吹上神社の拝殿などごくわずかです。黒岩稻荷神社に、明和2(1765)年に久留米藩8代藩主である有馬頼貴が寄進した鳥居があります。

近代の建築物は、昭和9(1934)年に竣工した旧小郡村役場(現・井手運送)があります。

### ② 美術工芸品

絵画は、社寺のものを中心に把握しています。浄土真宗寺院に残る御絵伝のほか、熊本県出身の日本画家である甲斐青萍が大保原合戦を描いた屏風があります。

彫刻は、社寺の境内や集落にある石造物が多くを占めます。石祠や狛犬、灯籠などで、ほとんどが近世から近代にかけて作られたものです。

工芸品は、松崎の靈鷲寺が所蔵する鎔銅製の仏具、八坂の若宮八幡神社に奉納された鉄製幡があります。

書跡・典籍は把握できていません。

古文書は、市内の行政区に伝えられた区有文書を確認しています。多くは近代から現代のものですが、江戸時代の農地管理や宮座の運営についての記録も残されています。個人宅で所有されている古文書は、江戸時代の宿場町に関する史料、蟻取引に関する史料、稻吉堰の普請に関する史料を確認しています。

考古資料は、上岩田遺跡出土の瓦、小郡官衙遺跡出土の鐵鏃など、指定文化財の価値がある資料が多数あります。

歴史資料は、道路開削や水門建設などの記念碑があります。めずらしいものとしては、江戸時代に筑紫野市・佐賀県三養基郡基山町との境界に置かれた、筑後・筑前・肥前の三国境石や、寛政5(1793)年の松尾芭蕉の百年忌に建てられた胡蝶塚があります。



黒岩稻荷神社 鳥居



旧小郡村役場



大原合戦図屏風 (部分)



三国境石

## (2) 無形文化財

過去の文化財調査によると、市内で刀剣の鞘づくりの職人を把握しています。また、把握調査においても、弓具の製作者を把握しています。

## (3) 民俗文化財

### ① 有形の民俗文化財

有形の民俗文化財は、農業に関する資料を中心に把握しています。田畠の耕作に使用する鋤や鍬、収穫したものを処理するための唐箕やぶりこなどがあります。



上げ舟（揚げ舟）

市南部の平野部は、宝満川や秋光川が筑後川に合流する地点に近いため、頻繁に洪水に見まわれてきました。そのため、水害に備えた木舟を各所に用意していました。普段は建物の天井や軒下に吊り下げておき、洪水の際に避難や家財道具の運搬などに使用しました。陸に上げ、さらに高い位置に置くことから、上げ舟（揚げ舟）または吊り舟と呼ばれます。長さは5～6m、幅は1m前後と大型で、個人が持つのではなく、集落や村単位で所有していました。

このほかに、当市に特有の生業として鴨猟があります。この猟には、無双網という網を使用します。湿田に糸を撒いて鴨をおびき寄せ、杭や手縄を組み合わせた仕掛けを用いて、網を覆い被せるという手法です。網は長さ14m、幅2.5mと長尺で、一度に大量の鴨を捕まえられます。



粥占い

### ② 無形の民俗文化財

無形の民俗文化財は、農業に関わりの深い行事を把握しています。作物の収穫や気候を占う粥占い、水神に対するダブリュウや川祭り（川まつり）の行事、五穀豊穣を願う獅子舞、収穫に感謝する名月さんなどがあります。

粥占いは、大保の御勢大靈石神社と福童の大中臣神社で行われています。やわらかく飯を炊き、これを神前に供えて1カ月ほど置きます。これについていたカビの色や形状で、その年の収穫の良否を占います。

ダブリュウは、駄風流もしくは馬風流とも書き、農作業に欠かせない牛や馬を洗って川の水を汚したことを水神に詫びるための祭りです。竹に、米やイリコを入れた藁苞を下げ、川辺や水路の岸に立てて神事を行います。川祭り（川まつり）は、地域によってはダブリュウと同じ行事を指すこともあります。多くは農業用の水路や隣接する石祠、水神をあらわす石碑の前で行う神事のことです。福童の川祭りは水路の中に竹で櫓を組み、そこで神事を行います。

当市の獅子舞は、獅子追いもしくは獅子廻しとも言い、田植えの疲労を癒すサナボリの行事とし

て行われてきました。五穀豊穣と無病息災を願って集落の中を巡回し、最後に氏神を参ります。伝統的な神事や供物、囃子などの多くは途絶えていますが、現代に合った形に変わり、市内の 10 カ所で継承されています。

名月さんは、旧暦の 8 月 15 日に中秋の名月を鑑賞し、農作物の収穫に感謝する行事です。あわせて旧暦 9 月 13 日にも行います。旧暦 8 月に里芋を、旧暦 9 月に栗や豆を供えるため、それぞれ芋名月、栗名月・豆名月とも呼ばれます。旧暦 8 月の名月さんでは、子どもたちが「名月さーんなーあーげたの、あーげたなーら引かせんのー」と歌いながら家々を回り、供物を分けてもらう風習があります。

このほかにも、正月の火祭りである左義長（さぎっちょ）、子どもの健やかな成長を願う初七夕などを把握しています。

#### (4)記念物

遺跡は、県と市の遺跡等分布調査で把握しています。北西部の三国丘陵には力武内畠遺跡を代表とする弥生時代の集落と墓地が多く、中部の低台地には古墳時代から古代の集落が、中・南部の低台地の縁辺には中世から近世の集落が分布しています。また、花立山では 300 基以上の円墳や横穴墓を確認しています。

名勝地は、国登録記念物である平田氏庭園を作庭した松尾千六の作である河原氏庭園を把握しています。

動物は、令和元（2019）年からコウノトリの飛来を確認しています。植物は、国（環境省レッドリスト 2020）や県（福岡県レッドデータブック 2011）に絶滅危惧種とされているツクシオオガヤツリとオニバスが生育していることを確認しています。地質鉱物は、特異な自然現象の生じている土地を含めて把握できていません。

#### (5)文化的景観

文化的景観は、江戸時代の街道沿いの宿場町や在郷町の景観と、宝満川周辺の田園風景を確認しています。現在でも旧道の一部が残り、これに沿って石祠や道標などが一連の風景を作り出しています。また、市域の南部に広がる田園と灌漑のための水路、そこで行われる祭りの景色は、豊かな実りを得るための先人たちの尽力が生み出したものです。



獅子舞（上西）



味坂の田園風景

#### (6)伝統的建造物群

周辺の環境と一体となって歴史的風致を形成する伝統的建造物群は把握できていません。

## (7) その他の文化財

### ① 地名

当市の大字・小字の名称や、江戸時代の宿場町・在郷町で使用されていた通名を把握しています。当市の小字名や通名の多くは、古代の条里制や近世の開拓、田畠の状態など農業に由来します。

### ② 人物史

当市の人物史として、当市にゆかりのある3人について確認しています。

#### [高松 凌雲]

天保7（1836）年、古飯村の庄屋の三男として生まれ、江戸や大坂で医術を学びました。慶応元（1865）年に徳川御三卿の1つ一橋家に仕え、一橋慶喜が15代将軍になったのち幕府の奥詰医師となり、箱館戦争に従軍しました。明治12（1879）年に仲間の医師たちと同愛社を結成し、経済的に困窮した人びとの医療活動に生涯をささげました。

#### [田中 新吾]

嘉永2（1849）年、下西鰯坂村で生まれました。明治14（1881）年に県会議員に当選し、その後23年間議員を務めます。光行村出身で同じく県会議員である佐々木正蔵（のちに国会議員）とともに、洪水被害が多発していた筑後川の改修工事を実現させました。54歳で政界を引退、その後は地元の農事改良に力を尽くし、稲の白葉枯病に強い新品種「三井神力」を開発しました。

#### [野田 宇太郎]

明治42（1909）年、立石村松崎で生まれ、少年時代から詩や文学に親しんで育ちました。学生時代から詩人・作家として活動し、昭和15（1940）年から編集者として東京の出版社に勤務しました。昭和26（1951）年からは、偉大な文学者たちの足跡をたどり、記録にとどめるため「文学散歩」の名称で新聞記事の連載を始めます。「文学散歩」は34年間書き続けられ、その範囲は国内だけでなく海外にも及びました。

### ③ 昔語り

昔語りは、主に昭和時代の生活習慣や風習、行事、街の景観についての語りを確認しています。また、第二次世界大戦中の暮らしについてもさまざまな証言を得ています。

### ④ 地域資源

地域コミュニティが運営している行事や、季節ごとに見られる特徴的な風景を把握しています。いずれも近年誕生したのですが、地域の人びとに愛され、次代へ受け継ぐことが望まれています。